

連合徳島ユースターNEWS

2021年度 第2号 (2021. 11. 17発行)



【経過報告】

早いもので、今年もあと2ヶ月を切り、慌ただしい年末の足音も聞こえてきました。

去る10月20日(水)の19時～、連合徳島会議室にて2021年度 連合徳島青年委員会 第5回幹事会が開催されました。

2022年度に向けての活動計画等を中心に活発な討議が行われ、Web等も活用しながらのコミュニケーション活性化、新しい視点も取り入れながらの、より積極的・能動的な活動の展開などの方針を定め、いくつかの具体的なアクションについても決議されました。

今年1年の活動を振り返ってみますと、昨年に引き続き、新型コロナの影響による制約等を余儀なくされましたが、その中でも歩みを止めないため、様々な創意工夫がなされ、各種会議・研修等のリモート開催など、新しい活動の形ができ、徐々に定着もしていった1年だったと思います。そんな中、変化に柔軟に対応していく人間の能力や強さに感嘆しつつ、反面、環境の変化等により、心身に不調を訴える人が増えており、やはり、デジタルだけの生活には限界があり、人間が人間らしく、健康に生きていくためには人と人との関わり合い、対人コミュニケーションが大切なんだと、改めて気付かされた次第です。

今回のユースターNEWSには、タイムリーな「コロナ禍におけるメンタルヘルス」研修のレポートも掲載させていただきましたので、お楽しみください。

来る12月6日(月)に開催予定の2022総会に向けて、青年委員会一同、力を合わせて頑張っています！

幹事会の中の1コマです。
(場所は連合徳島会議室です)

今後、ほぼ塩漬けになっていた(汗)、
Facebookアカウントもしっかり稼働させて
いく予定です。
こちらもよろしくお願いいたします！



【研修受講レポート】

去る10月23日(土)、ZoomによるWEB開催で「徳島県中小労働対策本部・NPO法人徳島労働安全衛生センター・連合徳島青年委員会 合同学習会」が開催された。

当日は、徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 内海千種准教授を講師に迎え、「コロナ渦におけるメンタルヘルス」というテーマで、講師の内海先生のユーモアたっぷりのトークを挟みながら講演いただいた。

学習会の内容としては、現在のコロナ渦のような特殊災害化において、心理的ストレスを感じている人が大幅に増加している一方、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等により、趣味や外出、娯楽によるストレスを発散する機会が失われている中でも、今できる自分自身のストレス発散方法を見つけることや家族や友人など信頼できる人と助け合いながら乗り切っていくことが大切であるというものでした。

今回の学習会を通じて、学んだことを自分だけが実践していくのではなく、周りの人達にも発信していけるよう努めていきたい。

[通信：四国電力労働組合 岡久 駿]

【コラム】新型コロナ禍の中での学び②(拡大ver)

今号のNEWSでは、前号でご紹介したコラムにつき、拡大バージョンでお届けしたいと思います。雑駁な感じになるかもしれませんが、お付き合いのほど、よろしくお願いいたします。

【文責:四国電力労働組合 小畑 文人】

①知覧特攻平和会館（鹿児島県）探訪記

先日、百田尚樹さん原作の「永遠の0(ゼロ)」を見る機会があり、コロナ禍前にはなるのですが、個人的な旅行で「知覧特攻平和会館」を訪れたことを思い出しました。その際に感じたことなどを簡単にレポートしたいと思います。

戦争の悲惨さを語る際、みなさんの中でも象徴的なものは、広島・長崎への原爆投下ではないでしょうか。修学旅行等で原爆ドーム他の見学に行かれた方も多いことかと思えます。連合徳島の平和行動としても、毎年、千羽鶴の贈呈や現地の訪問等を行っており、私自身も参加経験(広島)があります。連合広島の仲間によるピースウォーク等を企画いただき、より深い理解につながり、とても貴重な体験をさせていただきました。この場を借りて、御礼申し上げます。

広島で一番強く感じたことは、非戦闘員である一般市民に対し、人体に甚大な影響をもたらす非人道的な兵器により無差別的な攻撃を加える卑劣な行為への憤り、そして、不幸にして巻き込まれた方への哀悼の感情でした。その点に関しては、みなさんとも同じ思いを共有できるのではないのでしょうか。

もう一つ、太平洋戦争の歴史を語る中で、特攻という無謀な作戦についてに触れないわけにはいかないと思います。私たち青年層と同年代、もっと若い高校生ぐらいの世代の少年兵も、この作戦に従事し、若い命を散らしていきました。

そんな多感な年代の若者たちが、祖国のためを、家族や恋人、大切な人のために、どのような思いで死地に臨んでいったのか。その思いが、手紙や様々な資料展示によって、会館には残されています。

その生々しい手紙等からは、その若者たちが、両親や周りの人達に大事に育てられ、懸命に勉学を修め、心身の鍛錬に励んで人格を磨いてきた様子が読み取れます。また、そんな中にも、恐怖や悲しみが溢れていたり、心配をかけまいと気丈に振る舞う様子なども端々に垣間見えます。

その先に何が待ち受けているのかを理解しながらも、死地に赴く選択をしていく過程の苦悩に思いを馳せると、本当に心を揺さぶられます。

私自身は、戦争を賛美も肯定もしませんが、ぜひ、1度は当会館に足を運んでいただきたいと思い、ご紹介しました。その際には、語り部のお話などにも耳を傾けていただければと思います。

【知覧特攻平和会館HP】<https://www.chiran-tokkou.jp/>

②戦前の学校教育が日本を戦争へ導いた？

少し前段のコラムの流れを引っ張りますが、戦前の学校教育って、どんな感じだったのでしょうか。その名前を聞いて、眉を顰められる方もいらっしゃるかもしれませんが、1890年に明治天皇が近代日本の教育方針として下した「教育勅語」。1948年に国会で排除(失効)に関する決議がなされ、現在に至っていますが、その内容とはどのようなものだったのでしょうか。

以下に「教育勅語」の中の「12の徳目」について、インターネットで口語訳を検索した結果をご紹介します。(※サイトにより多少の表現の違いはあると思いますがご容赦ください)

個々に解釈の違いはあると思いますが、どのように感じるでしょうか。ぜひ、フラットな目線でご一読をいただければと思います。

【教育勅語 12の徳目】

- 両親を大切にしましょう(孝行)
- 兄弟・姉妹は助け合いましょう(友愛)
- 夫婦はいつも仲睦まじくしましょう(夫婦の和)
- 友達同士信じ合い、大事にしましょう(朋友の信)
- 自分の言動を慎みましょう(謙遜)
- まわりの人を広く愛しましょう(博愛)
- 勉強し、職を身につけましょう(修学修行)
- 知識を深め、才能を伸ばしましょう(智能啓発)
- 人間性の向上に務め、道徳心を養いましょう(徳器成就)
- 世のため、人のために働きましょう(公益世務)
- 社会のルールを守りましょう(遵法)
- 国のため真心を尽くしましょう(義勇)